

## 北海道のキンポウゲ類 (キンポウゲ科)

埼玉県和光市 門田 裕一

### 1. キンポウゲ類

キンポウゲ属 (キンポウゲ科) は約 600 種があり、熱帯から寒帯までほぼ世界中に分布する。キンポウゲ類は温帯生のため、数多くの種がある大ヒマラヤ地域のように、亜熱帯～熱帯地域では高山に分布する。ラテン語属名の *Ranunculus* は小さなカエルまたはオタマジャクシを意味し、カエルが棲むような水分の多いところに生えることに由来している。*Ranunculus* は植物分類学ではラヌンクルスと読むが、園芸方面ではラナンキュラスと呼ばれることが多い。

キンポウゲ属はいくつかの亜属に分けられているが、我々にとって馴染みの深いものでは、陸上生の狭義キンポウゲ亜属と水生のバイカモ亜属の二つとなる。形態的な多様性に加えて、陸上生と水生の中間的なものもあって生態的にも多様であり、最近では分子系統学的な解析も行われている。これらの解析結果によると、水生の種群は最近になって出現してきたらしい。実際、黄色い花を咲かせる浮水植物ラヌンクルス・ヌタンス *Ranunculus natans* などもある。ここでは、道内で普通に見られる陸上生の狭義キンポウゲ亜属植物をキンポウゲ類と呼ぶことにする。国内では陸上生のキンポウゲ類は全て黄色い花を咲かせるが、国外には白い花を咲かせるキンポウゲ類もある。このことについては後でもう一度触れる。

キンポウゲ類の一般的な英語名は

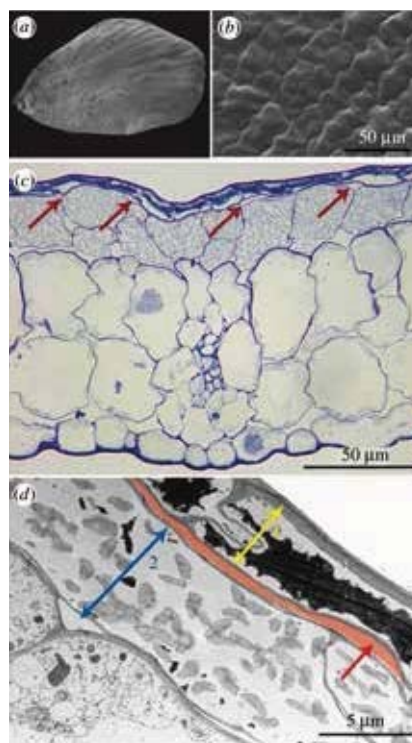


図 1 ハイキンポウゲの花弁。a. 花弁上面 (表面) の走査型電子顕微鏡画像。b. 同じく走査型電子顕微鏡画像で拡大率を上げたもの。表皮外面は何らかの突起があるものだが、ハイキンポウゲの花弁表面は全く平らになっている。c. 花弁断面の光学顕微鏡画像。上が向軸面 (表面)、下が背軸面 (裏面)。向軸側表皮には色素がぎっしり詰まり、その下にはデンプン粒に満たされた細胞がある。矢印は空気層。d. 花弁断面の透過型電子顕微鏡画像。黄色い矢印は黄色い色素を含んだ表皮層、青い矢印はデンプン粒の層を示す。赤い矢印は色素の層とデンプンの層を隔てる空気層。この多層構造が構造色を生み出すことになる (Vignolini S. et al. 2012. Directional scattering from the glossy flower of *Ranunculus*: how the buttercup lights up your chin. *J. Roy. Soc. Interface* 9(71): 1295–1301. より)。

buttercup あるいは crowfoot である。前者は花弁のもつ金属的な光沢に、後者は和名のウマノアシガタ (馬脚形) に似た趣向